

徹 の 笛

第九回 福原徹 演奏会

ハムレット hamlet

助成=アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団)  / 公益財団法人新日鉄住金文化財団

後援=  公益財団法人日本伝統文化振興財団 / 侑邦楽ジャーナル / 邦楽の友社 / 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

主催=福原 徹

本日はお忙しい中ご来場いただき、ありがとうございます。

2009年、坪内逍遙生誕150年記念逍遙祭で、逍遙訳「ハムレット」の詞章を用いた笛と声（謡）による作品を発表しました。これが多くの皆様の反響を頂き、後に太棹や尺八を加えた形で早稲田大学や美濃加茂市（逍遙の故郷）で再演する機会を得ました。シェイクスピアの作品には時代を越えて人を物語の世界へ引き込んでいく力強さを、また逍遙訳の言葉には邦楽の発声との相性と共にエンタテインメント的な熱気のようなものを感じます。

一昨年の第七回「徹の笛」では、「マクベス」を発表しましたが、その経験を経て今回改めて「ハムレット」を取り上げることに致しました。

無理な注文にもかかわらず「試行錯誤」の旅に意欲的に付き合ってくれた共演者の皆さん、ご尽力いただいたスタッフの皆さんに、感謝申し上げます。

濱口久仁子氏には過去の上演についてや逍遙訳の資料のことで今回もお世話になりました。

また、ご助成賜りましたアーツカウンシル東京、新日鉄住金文化財団、ご後援いただきました各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。

最後になりましたが、ご来場いただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。お蔭様でこの「徹の笛」も本日で9回目を迎えることが出来ました。第10回は再来年の春、久々に1階で開催する予定です。

本日は誠にありがとうございました。

福原 徹

●
PROGRAM

初世富士田吉治 作曲

長唄 安宅の松 より

篠笛 福原 徹

福原徹 作曲

solo 06 ナルキッツス [初演]

篠笛 福原 徹

六世福原百之助 (四世寶山左衛門) 作曲

竹の踊 白い月

福原徹 作曲

篠笛 福原 徹

木柀／小鼓 福原百之助

————— 休憩 —————

福原徹 作曲

ハムレット [改訂初演]

～シェイクスピア作 坪内逍遙訳「ハムレット」による～

ハムレット 小早川 修

オフィーリア 都 了中

クローディアス 小早川泰輝

レアーティーズ 福原百之助

エルシノア城 福原 徹

安宅の松

1769年(明和6)市村座初演。本名題「隈取安宅松」。

二上りの「裏のなア…」の笛は、数ある長唄の笛の中でも笛吹きにとって特に大事なところ。

これまで「ゆき」「黒髪」「もみぢ葉」「明の鐘」などの古典を笛の独奏で取り上げてきた。旋律の美しさや古典の持つ味わい深さに、笛だけでどこまで迫れるのか。

唄や三味線と合わせて吹く本来の古典演奏と、新しい曲を作ることの^{あいだ}間を埋める試みでもある。

歌詞

裏のなア 裏の背戸やの今年竹 笛にせうもの 草笛に

笛になりたや忍ぶ夜の 笛は思ひを口うつし

ああアしよんがいな しよんがいな

忍ぶ 忍ぶ其の身は安宅の松よ 雪の夜ごとの汐風に

もまれ もまれて立ちつくし

ありして これして しよんがいな アア 面白や

solo 06 ナルキッツス

笛のソロをたくさん作ることを目指し2012年からスタートしたsoloシリーズ。

昨年、カラヴァッジョ(1571～1610)の作品をいくつか見る機会があった。その中で、この「ナルキッツス」に出会った。何も音が聞こえてこない画面に、衝撃を受けた。



竹の踊／白い月

竹の精が踊っている、という「竹の踊」。師匠の作品の中でもファンが多い、愛らしい小品。

「白い月」は、月光に浮かび上がる騎馬武者の幻影というイメージで私が作った小品。

この2曲、直接の関係は全く無い。題材、曲の雰囲気も全く異なる。私が「白い月」を作った時、「竹の踊」を意識したわけではないし、もちろん続けて演奏することを意図したわけでもない。

しかし、どちらも篠笛の小品で、囃子の打楽器とのデュオ。題名まで何となく重なって見えてくる。

対称的とも言える2つの小品を、対にして演奏してみる。

ハムレット

王子ハムレットは、亡父の亡霊の告白によって、叔父クローディアスが父を毒殺し、母と再婚して王位に就いたことを知る。

迷えるハムレットは苦悩しつつも乱心を装うが、愛するオフィーリアは彼の変貌に苛まれる。

ハムレットは旅芸人に毒殺場面の芝居をさせてクローディアス王の反応をうかがい、謀殺の確証を得て復讐を決意するが、王もハムレットが真相を掴んだことを知る。

乱心のハムレットに父を殺されたオフィーリアは正気を失い、悲劇が起こる。

王はオフィーリアの兄レアーティーズに父親と妹の復讐をするよう唆し、ハムレットとの剣の試合を仕組むが…。

古代デンマーク、エルシノア城の悲劇。

[福原 徹]



福原 徹 [ふくはら・とおる／邦楽囃子笛方]

1961年東京生まれ。六世福原百之助(後の四世宗家寶山左衛門・人間国宝)に入門、福原徹の名を許される。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。邦楽囃子笛方として、長唄・箏曲などの演奏会、日本舞踊・歌舞伎の舞台、放送、海外公演等で古典演奏活動を続けると共に、笛を中心とした作曲に取り組む。

2001年第1回演奏会「徹の笛」(津田ホール)を開催、平成13年度文化庁芸術祭大賞(音楽部門)を受賞。2002年～2003年、新作連続演奏会「徹の笛 in MUSICASA」を隔月で連続六回開催。2004年第2回、2006年第3回「徹の笛」(紀尾井ホール)開催。2012年よりリサイクルシリーズを再開、第4回～第9回「徹の笛」を王子ホール、紀尾井小ホール、東京文化会館小ホールにて開催。

東京藝術大学、洗足学園音楽大学、清泉女子大学、立命館大学等の非常勤講師を歴任。NHK文化センター(青山、浜松、名古屋、柏、岐阜)講師。また、東京、浜松、彦根などで指導にあたり「百笛会」を主宰。一般社団法人長唄協会会員。創邦21同人。大田まちづくり芸術支援協会アドバイザー。

文部科学省検定 中学校音楽教科書「中学器楽 音楽のおくりもの」(教育出版発行平成28年改訂版)著者。CD:「徹」「徹の笛」「lift off」ほか。

(撮影 大塚道治)



小早川 修 [こばやかわ・おさむ／シテ方観世流能楽師]

シテ方観世流能楽師。(一社)観世会会員、準職分。(公社)能楽協会・(一社)日本能楽会会員(重要無形文化財総合指定保持者)。1961年小早川泰士の孫として生まれる。祖父及び浅見真高に師事。1984年東京藝術大学音楽学部邦楽科能楽専攻卒業。1986年同大学院修士課程能楽専攻修了。1968年「鞍馬天狗」花見で初舞台。1976年「小袖曾我」で初シテ。「乱」「石橋」「道成寺」「翁」「望月」「卒都婆小町」を抜く。2012年教育出版発行中学校音楽教科書及び指導書の能楽を担当。国内外の演能活動のほか、教員・学生・子供向けのワークショップなど、能楽の普及にも動めている。

(撮影 前島吉裕)



小早川泰輝 [こばやかわ・やすき／シテ方観世流能楽師]

1990年 小早川修の長男として生まれる。

父・小早川修 及び 浅見真州に師事。

1992年 仕舞「老松」で初舞台。

2000年 能「経正」にて初シテ。

2013年 東京藝術大学音楽学部邦楽科能楽専攻卒業。

能「石橋」を抜く。

2017年 能「猩々乱」を抜く。

能の公演のほか、ワークショップなど普及活動も行っている。



都了中 [みやこり・りょうちゅう／一中節・浄瑠璃方]

1980年生まれ。幼少の頃より一中節を、父及び先代都一中について稽古を始める。声楽を芹沢文子、長唄を芳村金秀に師事。2002年福井県武生国際音楽祭に招待をされる。定期的に自身の演奏会「都了中の会」を主催。2015年 国立劇場主催「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」出演。海外(ベルリン・ニューヨーク・サンクトペテルブルク・上海など)の公演にも多数出演。演奏活動の他、講演、浄瑠璃指導、その他 スタジオジブリ映画「千と千尋の神隠し」イメージアルバム(CD)に歌で参加など幅広い活動を精力的に行っている。CD「RYOCHU」[2011]



福原百之助 [ふくはら・ひゃくのすけ／邦楽囃子方]

1975年 常磐津文字蔵(一中節家元、都一中)の長男として東京に生まれる。1991年 祖父である福原流囃子方 四世寶山左衛門(六代目福原百之助)に師事。同年 望月太喜雄に師事。長唄を東音浅見文子に師事。1993年 福原流笛方 福原徹に師事。1994年 NHK学園高等学校を卒業。以後、福原流囃子方 福原賢太郎として演奏活動を行う。2006年11月 邦楽囃子福原流福原百之助派家元七代目福原百之助を襲名。邦楽演奏会・日本舞踊会の他にもワークショップやレクチャーコンサートなどの企画や公演を行い、日本の伝統芸能である邦楽の普及に努めている。また、アメリカをはじめ、上海、ドイツ、オーストリアなど、海外での公演にも多数参加している。社団法人長唄協会会員。邦楽囃子「若獅子会」同人。東京藝術大学非常勤講師。

●主催: 福原 徹 ●制作: 日本伝統音楽振興会 黒河内 茂 ●舞台監督: 清野正嗣 ●協力: 加藤繁治 ●デザイン: 長田 彰

次回のご案内

徹の笛 第十回福原徹演奏会

平成31年(2019年)4月27日(土) 紀尾井ホール(1階)